浜松商工会議所

中小企業景気動向調査

本調査は四半期ごとに実施しています

調査期間
2026年7～9月期

調査概況

1.	調査目的	静岡県西部地域の中小企業の景気動向
2.	調査対象	静岡県西部地域の中小企業658社
3.	調査方法	調査票による面接聴取法 (遠州信用金庫、浜松いわた信用金庫に委託) 一般財団法人しんきん経済研究所が集計
4.	調査内容	前回(2026年4～6月期)と今回(2026年7～9月期)との比較 今回と比較した次回(2026年10～12月期)予想
5.	調査時期	2026年9月1日～4日
6.	回収状況	回収数630社(回収率95.7%)

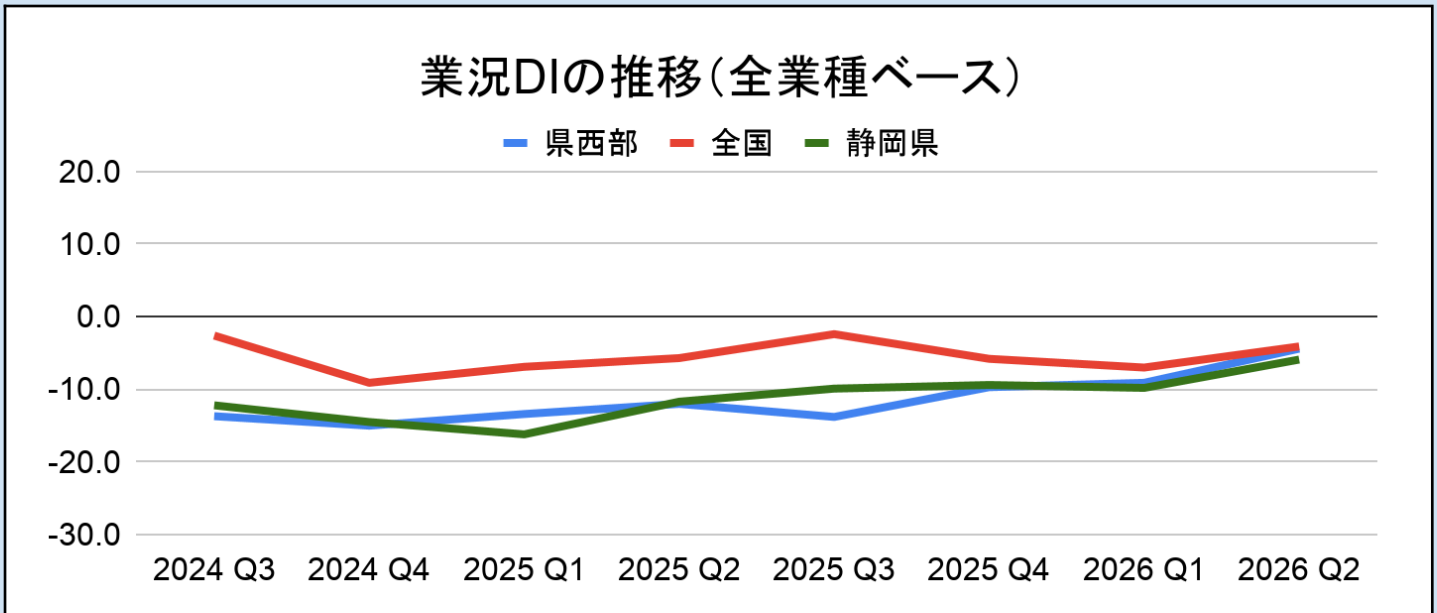
景気動向判断指数について

この調査では、景気判断の基準として、DI(Diffusion Index)による分析方法を採用している。
これは各質問項目で「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる企業の割合を差し引いた数値を時系列で観察することにより景況を判断する方法である。

静岡県西部地域・業種別景況天気図

	全産業	自動車	二輪車	楽器	卸売	小売	建設	飲食、他
調査数	630	73	50	18	75	62	71	16
2026年 7～9月期								
2026年 10～12月期 予想								

＊この天気図は、主要判断指数を総合的に判断して作成したものです。



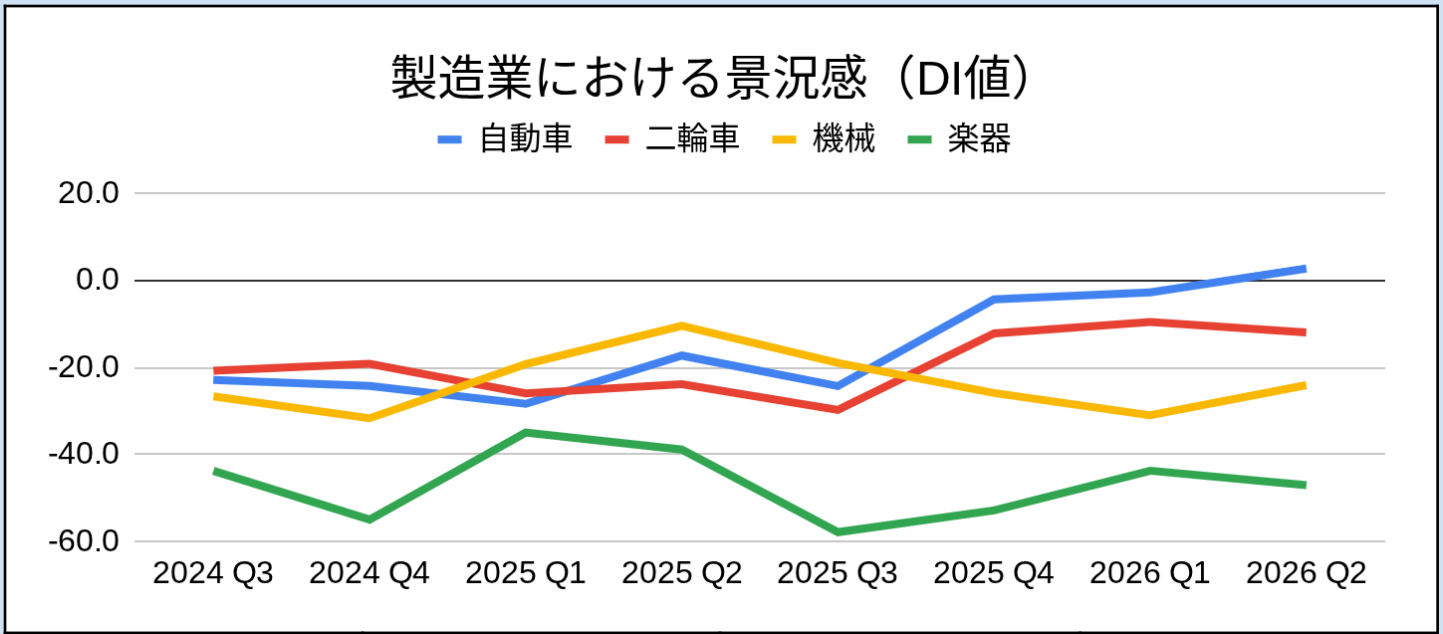
〈今回の景況〉

2026年9月調査の県西部地域の中小企業における業況DIは、全産業ベースで－4.4となり、前回6月調査(－9.1)と比べて4.7ポイントの小幅改善となり、3四半期連続の改善となった。製造業全般は、自動車を中心に「売上好調」との声があり、売上額DI等の改善につながったことで、製造業全般の業況DIが小幅改善となった。非製造業は「収益DIの改善」「適正価格での受注」「浜松市プレミアム商品券の効果」などが押し上げ要因となり、卸売・建設・飲食宿泊レジャーは改善した。

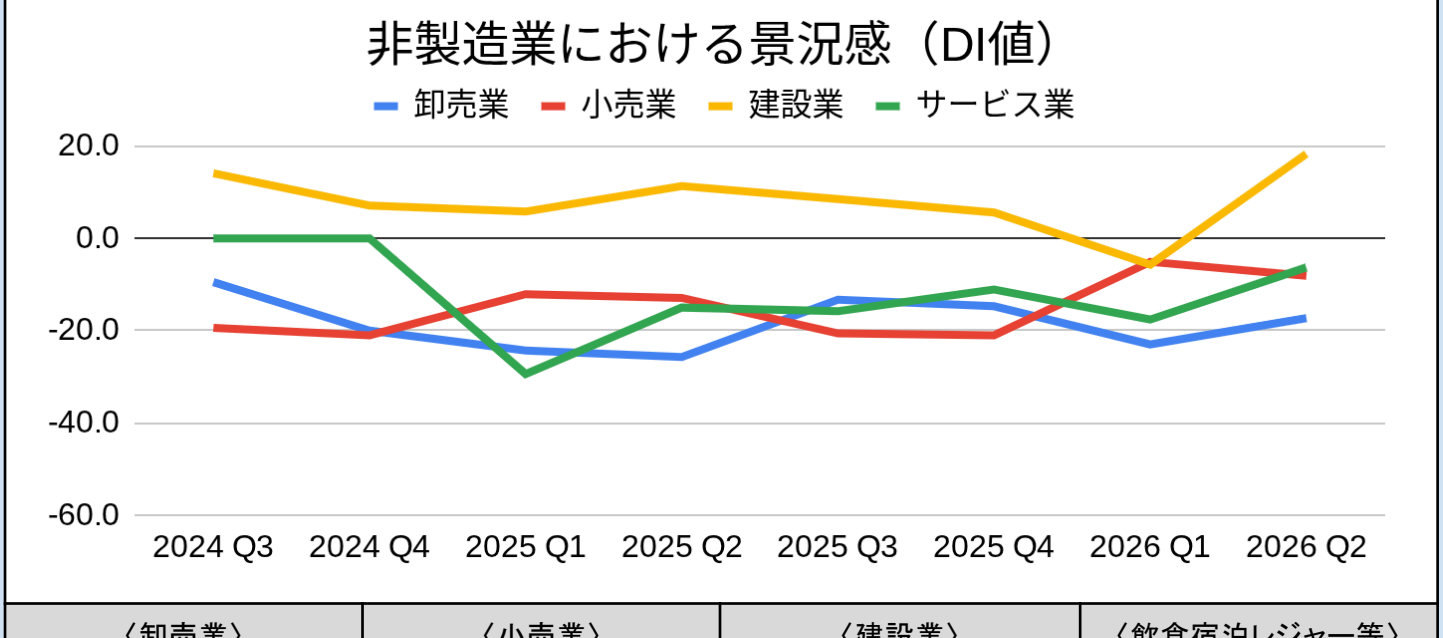
〈次回の景況予想〉

次回の業況DIは1.4ポイント小幅改善の－3.0を見込む。産業別では、製造業・卸売・不動産は改善し、一方で小売・建設・飲食宿泊レジャーは悪化を見込む。

中東情勢の影響により、前回調査では原材料価格DI・仕入価格DIが上昇したが、今回調査では部品調達の遅れなど一部支障が生じているものの、原材料価格DI・仕入価格DIは低下し、影響は軽微になったと推察される。



〈自動車〉	〈二輪車〉	〈機械〉	〈楽器〉
業況DIは5.5ポイント改善の2.7と、3四半期連続で改善し、2019年3月以来のプラス水準となった。調査員のコメントからは、売上増加や受注好調とのコメントが多くみられた。	業況DIは2.4ポイント小幅悪化の－12.0となり、3四半期ぶりに悪化した。調査員のコメントからは、原材料価格の高騰や受注減少とのコメントが複数みられた。	業況DIは6.9ポイント改善の－24.1となり、4四半期ぶりに改善した。調査員のコメントからは、受注が増加しているとのコメントが複数みられた。	業況DIは3.3ポイント小幅悪化の－47.1となり、3四半期ぶりに悪化した。調査員のコメントからは、原材料価格の高止まりが課題となっているとのコメントが複数みられた。



〈卸売業〉	〈小売業〉	〈建設業〉	〈飲食宿泊レジャー等〉
業況DIは5.7ポイント改善し－17.3となった。調査員のコメントからは、仕入価格の高騰により利幅は縮小傾向にあるとの厳しいコメントが多数みられたが、仕入価格DIが低下したことにより収益DIが改善し、業況DIの改善につながったものと推察される。	業況DIは3.0ポイント小幅悪化の－8.1となった。特定の好調企業が売上DI・収益DIを押し上げたものの、酷暑や販売価格DIの小幅悪化が下押し要因となり、業況DIの小幅悪化につながったものと推察される。	業況DIは24.0ポイント大幅改善の18.3となり、2四半期ぶりにプラス水準を回復した。価格高騰を織り込んだ適正価格での受注が進み、売上額DIや収益DIが改善したことで業況DIは大幅改善となったと推察される。	業況DIは11.3ポイント改善の－6.3となった。6月より利用が開始された「浜松市プレミアム商品券」は、物価高騰による家計負担の緩和と浜松市内の消費需要喚起に一定の効果があり、業況DIが改善したと推察される。